

コラム No. 1004

## かえるくんの話

二〇二二年六月二十九日

江尻 桂子

今日は、かえるくんの話をします。これは私が以前、ある心理学者（カリフォルニア工科大学の下條信輔先生）から聞いた話をもとに作った物語です。

むかしむかし、ある深い森の中で二匹のかえるくんがいました。ふたりの名前は、ちょっと変わっているのですが、ヨクカンガエルくん、マアカンガエルくんといいました。

ふたりは、見かけはそっくりでしたが、性格がとても違っていました。

ヨクカンガエルくんは、とても賢くていろんなことをたくさん知っていたのですが、いつも

深く考えすぎてしまうところがありました。

いっぽう、マアカンガエルくんは、あまり考えずに何でもやってしまうタイプで、おかげで失敗をすることもよくありました。

ある日、ふたりは追いかけてここに夢中になっていたうちに、森の奥深くに入り込んでしまいました。気がつくと、目の前に小さな池がありました。真っ白いピロードを広げたような、それは美しい池でした。こんなにきれいな池を見たのは初めてだったので、ふたりはときどきしながら近づいていきました。そして、ドボンと勢いよく池に飛び込みました。

すると、いつも普通の池と様子が違うのです。なんだか、どろどろしていて泳ぎにくい、それに、ミルクのような匂いがあるのです。変だなあと思っ、ふたりはあたりを見回しました。すると、池の前に小さな札が立っているのが見つきました。なんと、その札には『生クリームの池』とありました。

「これは大変。こんなところじゃ遊べないよ。」

ふたりは、あわてて池の端に向かって泳ぎはじめました。でも、生クリームの池ですから、べとべとっていて、かいてもかいても、前に進めません。そのうち、ふたりの体は少しずつ沈み始めました。

「誰かー。助けてー。」

ふたりは大声で叫んでみましたが、池のそばを通りかかると人は誰もいません。もがけばもがくほど、ふたりの体は、どろどろした生クリームにとらわれてゆくようです。

さて、それからふたりはどうしたのでしょうか。

まず、ヨクカンガエルくんは、即座にあらゆることを頭の中でシミュレーションしました。まず、自分の体の大きさや重さ、そして自分もがき続けることのできる時間を考えて、この先どれくらいの速さで池の中に体が沈んでいくのかを計算しました。また、誰かが池のそばを通る確率や、その人が偶然にも親切な人で、自分たちを助けてくれる確率、そして、最大の音量で叫び声をあげた場合に誰かの耳にそれが届く確率など、考えられる限りの「自分たちが助

かる可能性」について計算しました。そうしてすべての計算の結果、どんなに叫んでも、もがいても助かりっこないと言うことが分かりました。

「ねえ、マアカンガエルくん。これ以上やっても無駄だよ。」

「僕の計算によるとね、僕たちが助かる可能性はまったくないんだ。諦めた方がいいよ。」

そう言って、ヨクカンガエルくんは、もがくのをやめてしまいました。

一方、マアカンガエルくんの方は、そんなヨクカンガエルくんの話には耳を貸さず、ひたすら大声をあげながら、もがき続けていました。

するとそのとき、信じられないようなことが起こりました。

今までどろっとしていた生クリームの池が、ぶくぶくと泡立ちはじめたのです。何が起ったのかわからないままに、マアカンガエルくんはもがき続けていました。すると、生クリームは、びんびんびんびん泡立ちつづき、とうとう、

ふわふわのホイップクリームになりました。

ホイップクリームの池に浮かびあがったマアカンガエルくんは、ぶかぶか浮きながら、首をかじげました。どうして、どうどろだった池がふわふわの池になってしまったのだらうと、ひとしきり考え込んだ後、ハッとしてあたりを見まわしました。

「そうだ、ヨクカンガエルくんはどうしたんだらう。探さなくっちゃ。」

さて、自分の計算結果に悲観して、もがくのをやめてしまったヨクカンガエルくんはどうなったのでしょ。

ヨクカンガエルくんは息も絶え絶えになって、沈みかけていました。けれどもマアカンガエルくんが一生懸命動きまわって、生クリームの池をホイップクリームにしてくれたおかげで、クリームの池の上に浮かび上がることができました。

ヨクカンガエルくんは、池から這い上がって、はあはあと息を弾ませながら、マアカンガエル

くんに言いました。

「ああ、君のおかげで命拾いをしたよ、マアカンガエルくん。ほんとうにありがとう。」

ヨクカンガエルくとマアカンガエルくんは手をとりあって、お互いの無事を喜びましたとさ。

おしまい。

さて、かえるくんの話はいかがでしたか？

お話を読みながら、皆さんもいろいろなことを考えたかと思いますが、私はこの話から二つのことをお伝えしたいと思います。

つは、「どんな環境でどんな状況におかれても、諦めずにベストを尽くすこと」の大切さです。一見、簡単なことのようにですが、実はとても難しいことです。

わたしたちの大学ではいま、多くの学生たちが学んでいますが、なかには、厳しい環境、難しい状況のなかで大学に通っている人たちがい

ます。経済的困難を抱えている人、家族の問題を抱えている人、自分の健康に不安を抱えながら学んでいる人・・・さまざまな人たちがいます。けれどもそうした人たちが皆、自分のおかれた状況を嘆いてばかりいるかというと、そうではありません。一人ひとりの学生が、与えられた条件の中でベストを尽くして、この大学で学んでいます。

「」で少し、かえるくんの話に戻りましょう。

生クリーム池のなかで、なぜマアカンガエルくんは助かったのでしょうか。それは、彼が将来を悲観せず、希望を持ち続けたから、そして、自分がおかれた環境に対して、あれがないこれがないと不満を言わず、できる限りのことを一生懸命やってみただからではないでしょうか。

おそらく、皆さんが今おかれている環境というのは、ある部分は自分で変えることができたとしても、その他の部分は、どうしようもありません。そうであれば、その与えられた環境のなかで最善を尽くすことがとても大切だと思います。

そしてもうひとつ、かえるくんの話から皆さんに伝えたいことは、「がむしゃらに夢を追いかけること」の大切さです。マアカンガエルくんは、ヨクカンガエルくんと違って、先のこと・・・特に悪い結果となる可能性についてはあまり深く考えませんでした。だからこそ、あのとき無我夢中で手足を動かし続け、そのおかげで生クリーム池をホイップクリーム池に変えることができたのです。もちろん、ヨクカンガエルくんのように、さまざまな可能性を計算するとは大切です。けれども、その計算をしすぎて夢や希望を諦めてしまったら、元も子もありません。

夢を抱いて何かに挑戦しても、どこかでつまずいてしまうのではないか、きつと途中で問題がでてくるのではないか、自分には努力し続けることなんてできないのではないか・・・こんなふうに先のことを計算しすぎて、なかなか初めの一步を踏み出せないということはありませんか？

もし、皆さんがそうした状況にあるのなら、どうか勇気をもって、まずは最初の一步を踏み

出してほしいと願っています。そして何歩か進んだ後で、またその先のことを考えてみていいのではないかと思います。

道に迷うことがあったら、「どうぞ」かえるくんの話」を思い出してください。そして、ヨクカンガエルくんのようにじっくり計算しつつも、マアカンガエルくんのように将来を悲観せず、希望をもって夢を追いかけてほしいと願っています。

(えじり・けいこ)

#### 付記

このコラムは二〇〇四年に、本学のチャペル礼拝で話した内容をもとに書き起こしたものです。なお、「かえるくんの話」のフルバージョンは次の資料に掲載されています。

江尻 桂子(二〇〇四) かえるくんの話  
茨城キリスト教大学チャペル奨励集  
第一集 一頁〜七頁